県道 251 広島

よみがえる グリーンライン

～「松枯れ木」との闘い（その2）～

グリーンラインを愛する会
理事長　丸山 孝志

パトロール中に偶然出会ったY君。以後彼は愛する会と私のかけがえのない理解者として、また支援者として、本当に大きな役割を果たしてくれました。彼とはこのあとグリーンラインにある唯一の喫茶店、「メルシー」に移動して数時間に渡り色々な話をしました。残念ながら今はこの喫茶店はありません。

余談になりますがここのテラスから見る瀬戸内の海は絶景でした。穏やかな昼下がりなど、何時間座っていても飽きない、私のお気に入りの場所でした。それはさておき…。

彼は最初に「どうしてこれだけの自然、これだけの景観に恵まれた場所が、これ程までに荒廃したままになっているのか？」と私に聞きました。私が「行政の怠慢かな。一旦作った道路を維持管理するのは行政の責任なのに、長い間放置していたわけだから。」と答えたら彼はこう言いました。

「確かにそのような話は何処でも聞きますね。でも丸山さん。仮にそうだとしても、何故住民の皆さんはその行政の怠慢を指摘し、行政にちゃんとした仕事をさせなかったのですか？」と聞いてきました。私には答えられませんでした。

彼は続けました「丸山さん。僕は今まで色々な街で勤務してきました。色々な人たちに会ってきました。その中で、地域の活性化にしろ、環境の保全にしろ、行政の怠慢という現象の裏には、住民の怠慢があることに気付いたんです。怠慢という言葉がきつければ意識レベルの低さと言っても良い。住民が熱意を持って自分たちが地域の問題に取り組むことをしないで、何でもかんでもお役所に任せっぱなし、お役所におんぶにだっこ…これじゃあ行政マンだって熱意を持って仕事に取り組む気にはなれないのと違いますか？それともう一つ、そこに住む人たちが自分たちの持っている宝物の価値に気付いていないことも多いような気がします。このグリーンラインだってそうです。鷲羽山にも、屋島にも、六甲にも負けない素晴らしい景観と自然がある。いろんな街を見てきたよそ者の僕には良く分かる。でも、地元の人たちは気付いていない。だから荒れ果てて、昼でも車が通らない。地域にとっても、行政にとってもお荷物以外の何物でもない場所になっている。よその街は気付いているからこそ、行政も住民も一体となって観光開発や環境の保全に取り組んで、あれほど素晴らしい観光地になって、大勢の観光客が訪れている…。」

倒木が放置された遊歩道

熱っぽく語る彼の言葉は、テラスを渡る風とひとつになって私の心を吹き抜けて行きました。

私は彼の言葉を聞き、彼のきらきらと光る眼を見ているうちに、私自身の中にふつふつと湧き上がってくるものを感じていました。

「本当に彼の言うとおりだな。怠慢だったのは行政だけでなく、私たち住民も怠慢だった。そのせいで福山グリーンラインはここまで荒廃してしまった。

今やっとこうして仲間と一緒に活動し、何とかこの福山グリーンラインをよみがえらせようとしている。

まだ決して遅くはない、この活動を続けていけば、いずれ行政も協力してくれるようになるだろう。

企業や様々な団体も協力してくれるかもしれない。そして多くの市民も福山グリーンラインの魅力や価値に気付いてくれる。」

爽やかな風の渡るテラスで、キラキラと光る瀬戸の海を見ながら、彼の熱い言葉に耳を傾けていました。